



【特別支援学校のセンター的機能】

～しろがね特別支援学校による地域支援～

特別支援学校のセンター的機能として、専門アドバイザーが中心となり、前橋市・渋川市・吉岡町・榛東村の小学校・中学校・高等学校・幼稚園・保育園を訪問したり、保護者に来校していただいたりして、発達の気になる子ども達についての継続的な支援を行っています。

1月31日現在の相談依頼の件数(外部支援)

対象	幼稚園 保育園	小学校	中学校	高等 学校	特別支援 学校	その他	計
件数	240件	286件	53件	14件	10件	10件	613件

(その他は関係機関からの相談)

専門アドバイザーの仕事を紹介します。



通常の仕事は2歳くらいから18歳くらいまでのお子さんを参観し、担任の先生の願いを聞いて、目標を立て、その支援内容や方法を提案させていただいています。今回は、訪問先での様子を紹介します。

ある保育園で、1歳児から2歳児クラスまでのお子さんが集まって、集会を行っていました。10月頃の訪問だったので、年齢的には1歳半から3歳後半くらいまでのお子さんが年齢ごとに列になって座っていました。集会の途中で、園長先生が手品をしたのですが、驚く場面や楽しい場面で歓声をあげていたのが、2歳半以上のお子さんでした。また、園長先生のスピーチの中で質問されたことに対して挙手をしていたのが3歳になったお子さんでした。発達段階としておもしろいように年齢で反応が分かれていて、とても勉強になりました。

3歳になると一斉指導の中で、ある程度の指示が理解でき、行動できるようになります。担任の先生から依頼されたお子さんを参観するのですが、対象のお子

さんを支援するよりも、クラス全体の支援を充実させた方が効果的である場合が多いです。黙って友達のを拾ってあげた子どもを褒めたり、リレーで負けたチームの頑張りを認めたりしている担任がいるクラスでは、困り感のある子に対しても、親切で、助けあう様子が見られます。

次に、幼稚園の年少児クラスを参観した時のことです。対象の幼児（A君）には自閉症スペクトラムの診断が出ています。かばんの中にはおたよりや封筒、オムツ、ビニール袋が入っており、教卓にある色別のカゴに迷いなく1つずつ分けて入れていました。

自由遊びの後、終了の音楽がかかり、個別に「教室だよ」と言われると持っている遊び道具を片付けましたが、なかなか教室に戻れません。すると、休み時間にA君に慕われてかけっこで追いかけているB君が、一緒に戻ってきました。A君が後ろにいたB君の手を握ったのです。いつもB君が連れてくるわけではなく、普段は一緒に遊んでいます、必要になるとA君と一緒に行動してくれます。

担任の先生のすごいところは、どのお子さんに対してもその子の能力に合わせて頑張っていれば認めてあげることです。朝の会で歌わないA君に対しては、手を回すなどの手遊びをしていけば褒め、それに対して、他児には、歌い出しではっきりと声を出している子どもを褒めるなど、褒めるポイントを明確にしている点が素晴らしいと思いました。また、クラスに子どもが20名以上いましたが、目が届いていて、どの子どもの動きも見えていることに驚きました。

指示も明確で、制作についても見本を見せて、子どもたちの反応を一つ一つ確認しながら、指示が理解できたか、作業ができたかを確認しているので、できなくて遊んでいる子どももいませんでした。子どもが分からないという反応したら、早めに指示したり、修正したりすることが、子どもたちの意欲を持続させる秘けつだと思いました。

幼稚園・保育園の先生だけでなく、学齢期のお子さんの指導でも参考になる点が多くあると思いました。

今年度も理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の同行派遣を行っています。粗大運動・微細運動・姿勢・力のコントロール・言葉の不明瞭・吃音・置換等気になることがありましたら、障害の有無に関係なくお気軽にご相談ください。



群馬県立しらがね特別支援学校
専門アドバイザー 尾岸 純子
電話 027-268-6111
FAX 027-268-6113